

広島市における競技人口減少種目等への対応に向けた研究会

1 研究会について

(1) 目的

現在、競技人口が減少している種目については、競技を行う機会や場所の確保が困難になることなどにより、競技活動や競技力の維持・向上が図られなくなり、競技人口の減少が一層加速するといった事態が発生している。こうした事態を放置すれば、競技種目の多様性を損なうだけでなく、競技文化そのものの喪失をも招くことになり、本市が目指す新しい「スポーツ王国広島」の実現にとって、大きな障害となる。

このため、今後競技人口が減少すると見込まれる種目について、外部の有識者等を入れた研究会を開催し、こうした事態への効果的な対応策を検討することとする。

(2) 検討内容

- ・ 競技活動の維持（競技場所の確保を含む）に関すること。
- ・ 競技力の維持・向上（指導者の確保を含む）に関すること。
- ・ その他競技種目の多様性の確保に関すること。

(3) 対象とする競技

柔道	柔道や剣道は、中学校の部員数の減少に加え、スポーツ少年団の数も減少傾向にあり、更なる競技人口の減少が懸念される種目であるため。
剣道	

<中学校部活動に在籍する生徒数の現状>

「令和4年度 広島市中学校体育連盟 研究部調査報告書」のデータ(資料2-1)によると、広島市内の市立、私立、国立の中学校部活動に在籍する生徒数は減少傾向にあり、直近25年間で最も在籍生徒数が多かった1999年(平成11年)には、27,613万人いたのに対し、令和4年(2022年)は、20,046人と約27%減少している。それに伴い在籍生徒数が多かったバスケット、ソフトテニスもピーク時(平成11年)と比較して1,000人程減少している。一方、全体の生徒数が減少する中でも、バドミントンのように徐々に在籍生徒数が増えている種目もある。また、競技種目全体で見ると、在籍生徒数が1,500人を超える部活動(バスケットボール、ソフトテニス、バドミントン等)と、1,000人未満の部活動(テニス、水泳、剣道、柔道等)でばらつきがある。

資料2-2は、在籍生徒数が1,000人未満の部活動をピックアップして拡大したものである。増えたり、減ったりを繰り返すテニス、水泳や常に一定数の体操、新体操など推移に特徴がある中、特に剣道については、1999年(平成11年)と令和4年(2022年)を比較すると、約44%減少しており、減少幅が大きい。剣道の推移とよく似ているのが柔道である。

参考(部活動への加入率について)

直近10年間の生徒総数における運動部活動への平均加入率は約64%ある中(そのうち男子の加入率が約75%、女子の加入率が約54%)、令和4年度の加入率は59%(そのうち男子約68%、女子約51%)と加入率についても減少傾向にある。

2 広島市におけるスポーツ振興の基本的な考え方について

基本理念

新しい「スポーツ王国広島」を目指して
～スポーツが好き 仲間が好き 広島が好き～

スポーツは、言葉や国籍、信条、性別の違いを超えて感動を分かち合えるものであるとともに、それ自体が生きがいになるだけでなく、健康の増進や地域コミュニティの活性化、まちづくりにも寄与するものである。

ここ広島において、全ての市民が日常生活の中でスポーツに接し、あるいは参加することができる環境が整うならば、全ての市民が居心地のよい、笑顔であふれる平和なまちを体感できるようになる。

こうした広島の将来像を実現するためには、子どもから高齢者、障害者や健常者、初心者からトップアスリートまで全ての市民がその思いに沿って様々なスポーツと関わりが持てるようにする必要がある。

そこで、広島市は、このような将来像を見据え、『新しい「スポーツ王国広島」を目指して～スポーツが好き 仲間が好き 広島が好き～』というスローガンを掲げ、ハード及びソフトの両面にわたる環境づくりを目指すこととする。

参考(従来の「スポーツ王国広島」との相違)

従来の「スポーツ王国広島」は、多数存在したプロチームやトップアスリートが、競技力を発揮するというイメージをもとに掲げたものであるのに対し、新しい「スポーツ王国広島」*は、全ての市民が主役となり、その思いに沿って様々なスポーツとの関わりが持てるようにするというイメージをもとに掲げたものである。

※新しい「スポーツ王国広島」は、広島市基本構想第5次広島市基本計画《2009-2020》から導入された考え方

